

はじめに



姫路市長 清元 秀泰

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、ご遺族の皆さまに心からお悔やみ申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染者が国内で初めて確認されてから4年以上が経ちました。この間、本市では、見えない敵に対峙し、総力を挙げて感染症対策や緊急経済対策に取り組み、度重なる感染の波を乗り越え、ウィズコロナへの移行を進めてまいりました。

これまで、新型コロナウイルス感染症対策に、ご尽力、ご協力をいただいた市民の皆さま、医療従事者、事業者、各種団体の皆さまへ、改めて心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

また、たくさんの皆さまから本市へ心温まるご寄付をいただき、心から感謝申し上げます。いただいたご寄付は各種対策に有効に使わせていただきました。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、世界は未曾有の危機に直面し、現在に至るまで、社会、経済に大きな影響を与えました。我が国においても多くの尊い人命が失われ、緊急事態宣言等による行動制限、経済活動の停滞、感染者の増加による医療提供体制の逼迫など、それまで当たり前のように享受していた日常生活が一変し、社会の仕組みそのものが大きく変化してしまいました。

私は、市民の皆さまの3つのLIFEである「命」「暮らし」「一生」を守ることを最大の使命と定め、医師としての知見やノウハウ、人脈を最大限に活用しながら、各種対策の司令塔として先頭に立ち、皆さまとともにこの難局に立ち向かってまいりました。

本市では、令和2年4月に立ち上げた感染症対策本部と緊急経済対策本部を中心に、コロナ禍という前例がなく、先が見通せない状況の中で、何よりもスピード感を重視して、可能な限りの対策を講じてまいりましたが、未知のウイルスとの闘いにおいては、これまで経験したことのない、試行錯誤を伴う極めて困難な対応が求められました。

感染症対策では、妊婦とそのパートナーへの無償PCR検査やワクチンの優先接種を全国に先駆けて実施するとともに、コロナ専用病床の開設や病床の運用を担う医療人材の確保など、本市独自の対策を迅速かつ果敢に講じてまいりました。また、感染者の同居家族など、濃厚接触者となった方に症状が出た場合には、疑似症患者として扱う対応を、県下でいち早く実施するなど、限りある医療資源の最適配分にも取り組んでまいりました。

緊急経済対策では、特別定額給付金や生活困窮世帯への給付金支給等の国の支援制度に加え、飲食店を応援するためのプレミアム付きチケットの発行や休業要請等にご協力いただいた事業者の皆さまへの経営継続支

援、家賃支援、デジタル化支援等を、機動的かつ切れ目なく実施してまいりました。

これらの各種対策を実現させるため、次々と補正予算を市議会へ提出し、市議会議員の皆さまには、都度慎重かつ迅速な議案の審議を行っていただきました。

また、各種対策の実施に当たっては、市議会、医療従事者、事業者、各種団体の皆さまと、分野や官民の立場を超えて、この危機を乗り越えようとの強い思いを共有しつつ、多面的に連携を図りながらさまざまな対策を推進してまいりました。

令和5年5月8日には、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが2類相当から5類へ引き下げられました。耐え抜いてきた3年間も大きな転換期を迎えたことで、本格的なポストコロナ時代の到来を見据え、新しい生活様式の下、家庭、学校、職場、地域等のあらゆる場面で、以前の活気を取り戻すことができるよう、歩みを進めることとなりました。

この国の感染症対策の転換を契機とし、次なる感染症の危機に迅速かつ的確に対応できる体制を整えるとともに、希望に満ちた明るい未来の創造に向けて全力で取り組むことが、現在を生きる私たちに課された使命であると考え、このたび、コロナ禍で培った経験と教訓を本書にまとめることといたしました。

本書では、第1波から第8波まで本市が行ってきた感染症対策や緊急経済対策の取り組みに加え、医療従事者をはじめ、コロナ禍において経済、地域を支えてくださった方々から寄稿いただき、オール姫路で未曾有の危機に立ち向かった3年間の記録等を掲載しております。

結びに、コロナ禍において本市職員は、多くの関係者の皆さまと各種対策について意見を交わし連携するなど、貴重な経験を重ねてきました。職員一人ひとりが得たつながりや経験、教訓が、次なる感染症の危機のみならず、市民の皆さまの健康で安心してらせるまちの実現に向けた取り組みに活かされることを切に願うものであります。